

阪神北地域夢会議 会議録

- 1 テーマ：兵庫 2030 年の展望～阪神北地域の夢を語ろう～
- 2 開催日：平成 29 年 2 月 26 日（日）13:00～16:00
- 3 場 所：川西市文化会館
- 4 出席者：90 名（ビジョン委員 22 名、一般 45 名、来賓 5 名、専門委員 3 名、アドバイザー 1 名、オブザーバー 4 名、兵庫県 10 名）

5 内容

(1) 開会（13:00～13:35）

(2) グループ討議（13:40～14:50）

テーマ①「ひとと暮らし」（議題：子育てしやすい社会、健康長寿社会）

①-Aグループ、①-Bグループ 計2グループ

テーマ②「まちや地域」（議題：都市機能の充実、地域コミュニティのあり方）

②-Aグループ、②-Bグループ、②-Cグループ 計3グループ

テーマ③「自然と都市環境」（議題：地域環境保全、里山の利活用）

③-Aグループ、③-Bグループ 計2グループ

テーマ④「産業としごと」（議題：地域産業の振興、誰もが活躍できる働き方）

④-Aグループ、④-Bグループ 計2グループ

(3) 全体会（15:00～16:00）

○グループ討議発表

テーマ①「ひとと暮らし」

<①-Aグループ>

- ・子ども達の心の安らぎの場、子ども達が健全に育つ場として、施設（例：保育所、病院、公園）がもっと必要である。
- ・子ども食堂も設置数が少なくなかなか足を運びにくいところである。可能であれば各小学校区に一つずつ設置してほしい。
- ・父親に子育てしてもらおうときには、具体的に父親が子育てをする上でできること、できないことを聞いてあげることが重要である。
- ・母親が育児に専念し子どもに寄り添える様な、社会構造の変革が必要。

<①-Bグループ>

- ・公園などの地域で交流できる遊び場や、子どもを預けられる施設を作り、子どもを預けて仕事したり、地域の住民に子育てについて相談したりできるような地域の環を広げる事が必要。
- ・子ども達の声に対してクレームが出るようになったので、地域の中で子ども達と挨拶したり、イベントでふれあう機会を作るべき。
- ・高齢者に自治会を任せているのが現状で、若い世代に自治会に参加して貰えるように行政からの歩み寄りが必要。
- ・高齢者の足となっている公共交通機関をきっちり整備する必要がある。

- ・地域の若者達が高齢者にパソコンの使い方を教える機会を作ることで、高齢者の雇用促進につながるのではないかな。
- ・学校と老人ホームが一体化になった施設を作ることで、多世代間の交流を図れるのではないかな。

テーマ②「まちや地域」

<②-Aグループ>

- ・コンパクトシティ（幅広い世代の人々が望んでいるものが近接しているまちづくりのあり方）を実現させることで、若い世代の人口流出を防ぎ、防犯やインフラ設備を充実できるのではないかな。
- ・地域になじむきっかけづくりとして、地域ぐるみで盛り上がるイベントを行うべき。

<②-Bグループ>

- ・地元の商店街のみで使えるプレミアム商品券を発行して、商店街の活性化を図る。
- ・商店街で閉店してしまったお店を引き継いで貰えるようなリクルート制度を設けるべき。
- ・コミュニティバスを走らせて、高齢者が買い物に行きやすいような交通機関を作るべき。
- ・若い世代から自治会に入りづらいという意見もあったので自治会の方から若い世代に入って貰えるよう声かけをして、気軽に参加できることをアピールすべき。

<②-Cグループ>

- ・地域の病院に産婦人科がたくさんあっても都会の病院へ子どもを産みに行く人が多い現状がある。
- ・地元のブランド商品をもっと宣伝すべき。
- ・地域での挨拶をするようにして、地域のコミュニケーションをとるべき。
- ・地域のボランティアにも積極的に参加するよう住民一人一人が考えるべき。

テーマ③「自然と都市環境」

<③-Aグループ>

- ・空き家を田んぼや畑に変えて無料の農業研修を行えば、地域での農業の発達が期待できるのではないかな。
- ・阪神北地域の4市1町の有名な農産物を阪神北地域で一つのブランドとしてまとめられたらと思う。
- ・地域で採れた農産物を使ってレストランを開く。
- ・大人だけではなく、小学生にも里山の重要性をPRして、地域ぐるみで里山の活性化を行えばよい。

<③-Bグループ>

- ・地域ぐるみでのゴミのポイ捨て防止のための活動を行うべき。
- ・人が生活環境を築く上では土地開発は避けられないものなので、土地開発を進めるときは地域住民が互いに合意した上で行うべき。
- ・里山の中で親子で楽しめるイベントを開催するほか、里山で採れる特産物を生かした郷土料理の販売等を行う。実際に里山に来てもらって、住民一人一人に里山の重要性を学んでもらう機会を作るべきと考えた。

テーマ④「産業と仕事」

<④-Aグループ>

- ・学校の文化祭等を利用して、若い世代に地域の特産品を知ってもらいたい。
- ・将来A I 産業に就職する人を増やすために、子どもに対してA I に興味を持ってもらえるような施設を作るのはどうか。
- ・多世代間の交流を目的とした地域のイベントを開催すれば良いと思う。
- ・産休や育休が終わってもまだ子どもは幼いので、育休後も定期的に休めるような制度があれば良いと思う。
- ・外国人（留学生）のためのシェアハウスやホームステイ先をもっと積極的に増やすべき。
- ・高齢者に地域の子どもの見守りの活動を行ってもらうことで、多世代交流の一環になったり、健康づくりにもつながるのではないかと考えた。

<④-Bグループ>

- ・空き家を貸し出すことで空き家の数を減らした自治体もあるので、阪神北地域でも実際に行ってみてはと思う。
- ・住んでいる地域の魅力をもっと他の地域に広報する必要がある。
- ・障がい者の雇用が足りていないと感じているので、企業は雇用数をもっと増やすべき。近年A I が発達してきているので、A I を生かして障がい者雇用の手助けができるのではないかと考えた。

○阪神北県民局長コメント

- ・子育て関係について
 - …女性の雇用促進、活躍促進と叫ばれる一方で子育てに専念したい、子育てをする時期が必要であるという意見もあり、今後社会がこれらの問題に対しどう対応していくかが重要な観点になる。最近では待機児童の問題もあるが、自分の子どもを職場に連れていき子どもの世話をしながら仕事ができる所もある。こういった観点も女性の活躍促進や雇用増大の切り口につながるのではないかと考えた。
- ・まちや地域について
 - …出会いの場や地域活動の場を行政がどう増やすかという意見をいただいた。阪神北県民局では夢づくり応援事業を行っており、皆さんもご活用いただければと思う。
- ・里山について
 - …里山レストランという夢のあるアイデアをいただいた。県民局でもフリーバック構想という地元の里山で採れる食・農業といった資源を積極的にPRしようという取組を行っているところだ。その取組の中で里山レストランというキーワードを意識しながら進めていきたいし、豊かな里山を持つ川西市とも連携しながら進めていけたらと思う。
- ・地域の産業について
 - …A I の活用、障がい者の雇用促進というキーワードが出た。A I の発展をどう人間の幸せにフィードバックさせることができるのかという視点が重要であると思う。私は障がい者の雇用促進にA I が活躍しているようになればと思う。

阪神北地域は東京や海外にはない、この地域ならではの働き方ができる場所であると思っている。子育てとマッチングした働き方など多様な働き方ができる地域であると思うので、是非皆さんといっしょに地域を盛り上げていきたい。今回の討論の結果は2030年の社会づくりに向け、しっかりと議論していく材料にしたい。